

## 24日は新型肺炎ウイルスの感染拡大懸念で世界的にリスク資産は軟化

- 24日の世界の株式市場は新型肺炎ウイルスの感染拡大懸念で大幅安
- 今週の中国人民元上昇が示唆するものに注目
- 先進国の追加金融緩和、中国の財政政策に期待

## ■ 新型肺炎感染懸念から世界的に株価が下落

本邦連休中の24日、中国や韓国など新型肺炎ウイルスの感染拡大著しい国の株式市場軟化に伴い米S&P500株価指数も▲3.3%と大幅安、10年国債利回りも1.37%と史上最低水準（1.318%:2016年7月）に肉迫する展開となりました。

21日までの主要地域の年初来株価騰落率をみると、米国株は一人勝ちでした（図1）。経済指標が景気の底堅さ示す米国は世界の投資マネーの逃げ場となっていました。24日の一日で米国株の騰落率は年初来ほぼゼロにまで沈みましたが、米国一人勝ちの様相は一段と色濃くなりました。

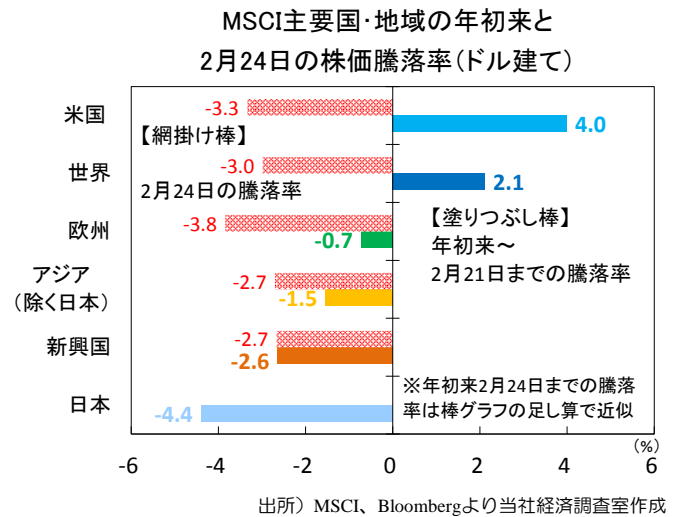
25日序盤のアジア時間、日経平均現物は寄り付き1,000円近い下落となりました。こうした中、ドル円は円安に動いています。24日の株価急落局面ではリスク回避姿勢の高まりから円高というお決まりの動きですが、円高の度合いは浅くなっています（図2）。急激な円高とならなかった背景には、中国人民元の上昇も効いているようです。

24日アジア時間、主に外国人投資家が取引するオフショア市場では、人民元の対ドルレートは\$1=7.05元近傍と昨年12月初安値に迫る水準を付けた後、25日にかけて反転し足元は同7.02元を抜け上昇しました（図3）。中国経済と関係が深く、人民元より流動性が高い代替通貨として注目される豪ドルやニュージーランドドルも上昇しています。

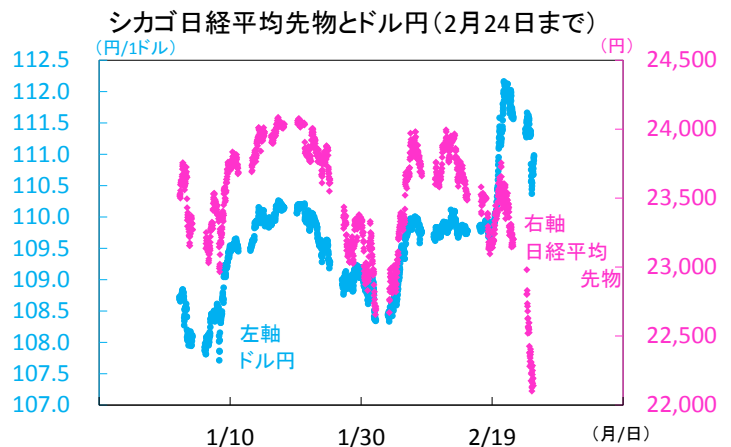
現下の金融市場のテーマは、新型肺炎ウイルスの感染拡大が世界景気に与える影響という点に異論は少ないと思います。こうした中、「火中の栗」とも言える中国人民元をあえて買う動きは、例えば中国政府が間接的に関与した買い支え等、大きな力の存在を連想する向きも今後増えるでしょう。人民元の持続的反発が同国政府のメッセージならば、目先の本邦や米国の株価反発も大きいとみています。

引き続き、世界の金融市場のテーマは同ウイルスの感染拡大が世界経済へ与える影響に絞られそうです。新興国中心に進んだ追加金融緩和策が先進国へ波及するか、また24日の動きを受け、市場参加者が次なる下支え要因、財政支出の拡大による景気の下支え期待を一段と高めるかが、リスク資産市場の上昇持続の焦点になりそうです。（徳岡）

【図1】米国株式市場は一人勝ち

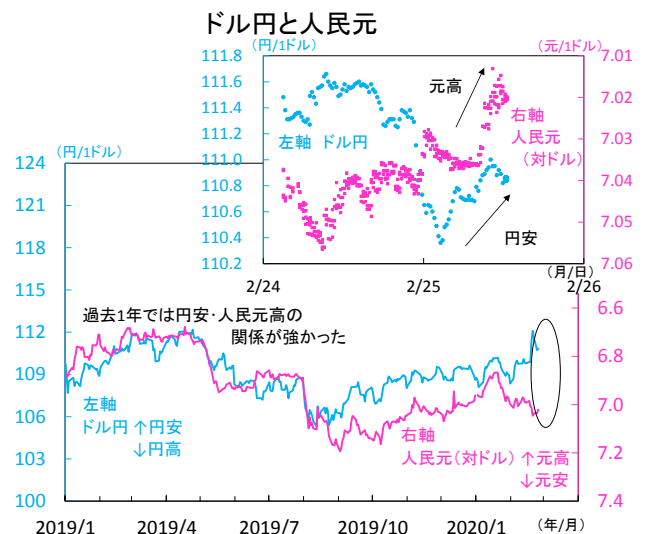


【図2】株急落でも急激な円高とはならず



注) 2020年1月2日から同年2月24日までの30分毎の価格を表示。  
出所) Bloombergより当社経済調査室作成

【図3】再び円安、人民元高の関係に回帰か



注) 直近値は2月25日10時30分。上段図はBloombergで観測された取引毎のレートを表示（25日12時30分まで）出所) Bloombergより当社経済調査室作成

## 本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJ国際投信戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJ国際投信が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。

## 本資料中で使用している指数について

- 「日経平均株価」に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。
- MSCI 米国、世界、欧州、アジア（除く日本）、新興国、日本に対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会